

(19) **日本国特許庁(JP)**

(12) **特 許 公 報 (B2)**

(11) 特許番号

特許第4373436号
(P4373436)

(45) 発行日 平成21年11月25日(2009.11.25)

(24) 登録日 平成21年9月11日 (2009.9.11)

(51) Int.Cl.

F I

E03C 1/044 (2006.01)

EO 3 C 1/044

F 1 6 K 11/07 (2006.01)

F 1 6 K 11/07

B

F 1 6 K 5/04 (2006.01)

F 1 6 K 5/04

G

請求項の数 3 (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2006-504318 (P2006-504318)	(73) 特許権者	505277716
(86) (22) 出願日	平成16年3月4日 (2004. 3. 4)		ダミクサ・エ・ピー・エス
(65) 公表番号	特表2006-519946 (P2006-519946A)		デンマーク国、デイ・コー５２４０・オー
(43) 公表日	平成18年8月31日 (2006. 8. 31)		デンセ・エヌ・エウ、ウストバークベイ・
(86) 国際出願番号	PCT/DK2004/000143		2
(87) 国際公開番号	W02004/081432	(74) 代理人	100062007
(87) 国際公開日	平成16年9月23日 (2004. 9. 23)		弁理士 川口 義雄
審査請求日	平成18年10月19日 (2006. 10. 19)	(74) 代理人	100114188
(31) 優先権主張番号	BA200300082		弁理士 小野 誠
(32) 優先日	平成15年3月12日 (2003. 3. 12)	(74) 代理人	100119253
(33) 優先権主張国	デンマーク (DK)		弁理士 金山 賢敦
		(74) 代理人	100103920
			弁理士 大崎 勝真
		(74) 代理人	100124855
			弁理士 坪倉 道明

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 混合水栓

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

本体部分（２）を含む混合水栓であって、前記本体部分上には回転自在スイベル蛇口（４）が取り付けられ、前記本体部分（２）内には冷水の供給を調節する回転弁棒（６）および温水の供給を調節する回転弁棒（６）が取り付けられている混合水栓において、

回転弁棒（６）は、本体部分（２）の側面に配置されたスライド（１０）に係合する突出アーム（８）を備え、

突出部材（１２）が本体部分（２）上に設けられ、

スライド（１０）は前記突出部材上を移動でき、

スリーブ（１４）が突出部材（１２）の端部に設けられ、

スライド（１０）に接続された棒（１１）は前記スリーブ（１４）内を移動できることを特徴とする、混合水栓。

【請求項 2】

本体部分（２）内に、弁棒（６）を挿入するように下方に開いた空洞を備え、

その後、底部（２０）を固定することができ、前記底部は冷水および温水をそれぞれ供給可能にすることを特徴とする、請求項１に記載の混合水栓。

【請求項3】

本体部分（２）内の弁棒（６）およびこれに嵌合する空洞は、前記弁棒（６）を、前記空洞に対して特定の角度位置にあるときだけ挿入できるように構成されていることを特徴とする、請求項２に記載の混合水栓。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は本体部分を含む混合水栓に関するものであり、上記本体部分上には回転自在スイベル蛇口が取り付けられ、上記本体部分内には冷水の供給を調節する回転弁棒および温水の供給を調節する回転弁棒とが取り付けられている。

【背景技術】

【0002】

混合水栓は、冷水および温水の供給をそれぞれ調節するための回転弁棒を作動する回転ハンドルを備えることで知られている。

10

【0003】

しかしながら、このような回転ハンドルはデザイン上の理由から避けるべきである。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明の目的は、冷水および温水の供給のそれぞれの調節を、スライドにより実行できる混合水栓を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明の新規の特徴は、混合水栓の本体部分の側面に配置されたスライドに係合する突出アームを備える各回転弁棒に見られ、この突出部材は本体部分上に設けられ、スライドは上記突出部材上を移動でき、さらに突出部材の端部にはスリーブを設けて、スライドに接続された棒が上記スリーブ内で移動できるようになっている。

20

【0006】

結果として、平坦な外観のスライドを備える混合水栓が得られる。これに加えて、各スライドは前後への移動の間、抜け出る(wriggling)ことを確実に防止される。さらに、身体障害者に最適の混合水栓が得られる。

【0007】

本発明を、図面を参照して以下に詳細に説明する。

【発明を実施するための最良の形態】

30

【0008】

図1に示す本発明による混合水栓は、本体部分2と上記本体部分2上に取り付けられた回転自在スイベル蛇口4とを含む。図4および図5に示す通り、回転弁棒6は本体部分2内に取り付けられ、上記弁棒は冷水の供給を調節し、さらに弁棒は温水の供給を調節するように構成されている。図1に示す平坦な外観を達成するために、各弁棒6は、図5に示す突出アーム8を備える。弁棒6は本体部分2の側面開口を貫通して突き出て、上記本体部分2の側面上で移動でき、上記本体部分2の平坦な上面と面一のスライド10に係合する。各スライド10には細長い開口が設けられ、突出部材12は、本体部分2に固定され、スライド10の上記細長い開口を貫通して突き出ることにより、上記スライド10が前後に移動できるようになっている。突出部材12の端部には拡大部分が見られ、上記拡大部分はスリーブ形状14であり、このスリーブにより、スライド10に固定された棒12はスリーブ内で移動可能になり、スライド10が抜け出ることを防止する。スライド10と同様に、突出部材12は真鍮製であるのが望ましい。

40

【0009】

スライド10はスライド機構を覆うカバー構造体により囲まれている。なお、スライド機構は他の方法、例えばラック作動機構または連接棒機構でも構成できることに留意されたい。

【0010】

突出部材12は本体部分2内の座ぐり部分のねじ16により、本体部分2に固定される。この座ぐり部分はカバー部材により覆われている。

50

【 0 0 1 1 】

さらに本体部分 2 には、弁棒 6 を挿入できる（好ましくは、底部から）空洞が設けられ、その結果、図 4 および 5 に示す通り、本体部分 2 の座ぐり部分内に示す貫通ねじ 2 6 により底部分 2 0 をその上にねじ止めできる。さらに、突出アーム 8 は弁棒 6 の上部分の上にねじ止めでき、上記突出アーム 8 は本体部分 2 の側面開口を貫通して突き出し、移動スライド 1 0 の溝穴に係合する。さらに、弁棒 6 の構成は、弁棒が本体部分 2 の空洞に対して特定の角度位置にあるときだけ挿入できるように、およびさらに、開いた位置から閉じた位置への変化が約 9 0 ° の回転だけを必要とするように構成される。本発明による混合水栓の大きな利点は、通常の弁棒以外には何も必要としないことである。

【 0 0 1 2 】

10

突出アーム 8 が本体部分 2 の座ぐり部分内のねじにより、弁棒 6 に固定されると、自在蛇口 4 は下方に移動し、本体部分 2 の座ぐり部分の中心開口 2 8 内に入る。自在蛇口は、蛇口が抜け出ることのできない下方の開口 2 8 内にまで移動する。自在蛇口 4 は周辺溝 2 3 を含み、その結果、自在蛇口は挿入された固定ねじ 2 2 により上記溝 2 3 内に保持されると同時に、回転可能に構成される。円形カバー部材 2 4 は自在蛇口 4 に固定され、上記カバー部材 2 4 は本体部分 2 の座ぐり部分の比較的大きい開口、したがってすべての固定ねじを覆う。カバー部材 2 4 は自在蛇口 4 と一緒に回転し、耐久性プラスチックガスケットによりシールされる。

【 0 0 1 3 】

図 3 は本体部分 2 に挿入された自在蛇口 4 の部分のいくつかの側面開口 2 9 を示す。これらの側面開口 2 9 は自在タップ 4 を囲む周辺空洞と連通し、さらに上記空洞は弁棒の出口開口と連通する。

20

【 0 0 1 4 】

混合水栓全体は、例えば、底部のベンチスクリューによりテーブル上面に固定できる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 5 】

【図 1】本発明による混合水栓を示し、上記混合水栓は自在蛇口を有する本体部分と、上記本体部分の両側の調節スライドとを含む。

【図 2】図 1 の混合水栓の断面図であり、回転自在蛇口をどのように本体部分に取り付けているかを示す図である。

30

【図 3】図 1 の混合水栓を示しており、いくつかの部品を取り除くことによる断面図であり、冷水または温水のいずれかの供給を調節する、本体部分の回転弁棒の 1 つを示している。

【図 4】図 1 の混合水栓の断面正面図である。

【図 5】図 1 の混合水栓の平面図であり、自在蛇口は取り外されている図である。

【図 1】

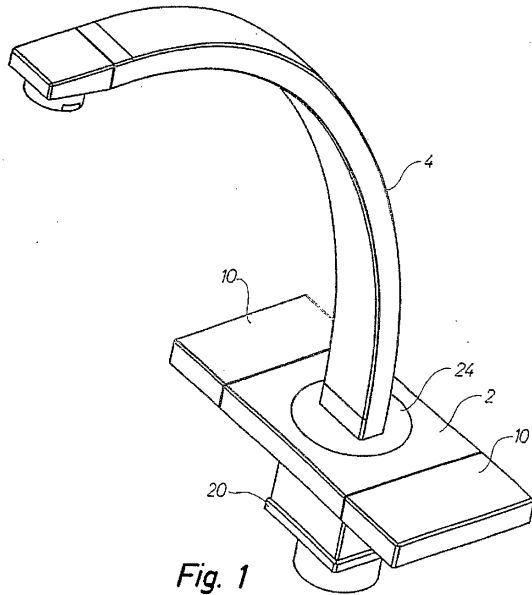


Fig. 1

【図 2】

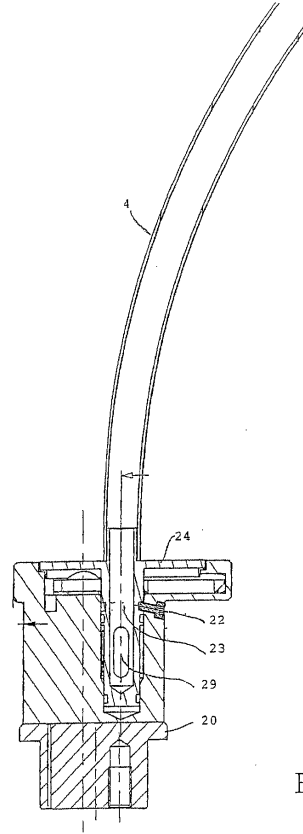


Fig. 2

【図 3】

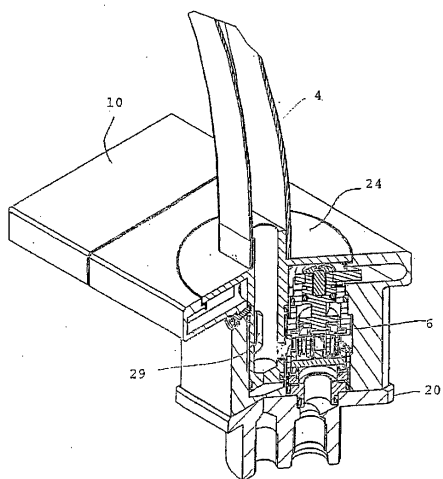


Fig. 3

【図 4】

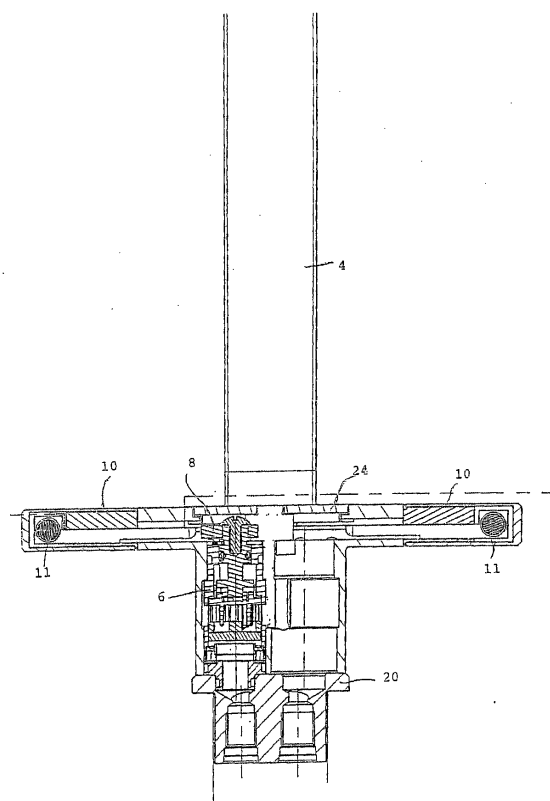


Fig. 4

【圖 5】

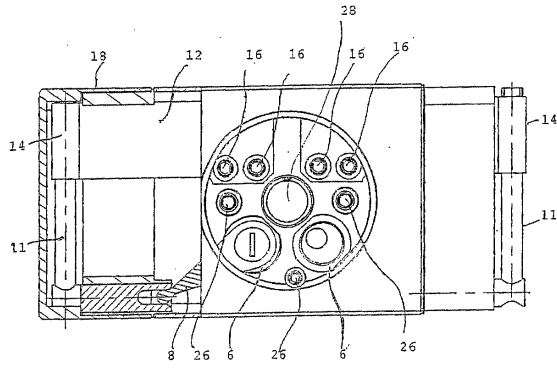


Fig. 5

フロントページの続き

(72)発明者 エリクセン, トーベン

デンマーク国、デイ・コ - 5 4 9 2 ・ ビツセンビヨルイ、ケルストラブスコベイ・ 5 9

審査官 渡邊 聡

(56)参考文献 特開平 0 8 - 1 2 0 7 1 6 (J P , A)

特開 2 0 0 4 - 0 9 2 0 6 9 (J P , A)

米国特許第 6 3 4 1 6 1 7 (U S , B 1)

英国特許出願公開第 2 2 2 7 5 4 9 (G B , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

E03C 1/044

F16K 5/04

F16K 11/07